



ICT だより

2016 年 9 月 30 日

第 97 号

宮城県北感染対策セミナー 2016 ～各感染症に対する感染対策の実践～



県北感染対策セミナー

宮城県北 感染対策セミナーの詳細が決定しました(参加費無料)。参加を希望される方は感染管理室までご連絡ください。

日時: 11 月 5 日(土)
13:15～16:20

場所: 芙蓉閣

基調講演

「各感染症に対する最近の感染対策はどうなっている？」

- ウイルス性胃腸炎の感染対策
- インフルエンザの感染対策
- 結核の感染対策

特別講演

「再確認しよう！臨床現場における器材処理」

今夏に発生した麻疹集団感染

はじめに

麻疹は、麻疹ウイルスに感染後、約 10～12 日の潜伏期間を経て発症します。初期症状は、発熱とカタル症状(咳、鼻水、眼球結膜の充血等)です。これらが数日続いた後、高熱となり、体に赤い発疹が出始めて、全身に広がります。肺炎、中耳炎等を合併することが多く、麻疹患者 1,000 人に 1 人は脳炎を合併すると報告されています。空気感染、飛沫感染、接触感染で伝播し、基本再生産数(感受性者の集団で、1 人の患者が平均何人の人に感染させるかを表す値)は 12～18 と極めて高く、広い場所(例:コンサート会場や体育館等)であっても、免疫がなければ同じ空間にいただけで感染し発症する危険性が高くなります。

2016 年 8 月～9 月にかけて関西を中心に麻疹の集団感染が確認されました。今回の ICT だよりでは、この麻疹集団感染についてまとめました。

大規模コンサート会場に麻疹感染者

8 月 19 日、19 歳の男性が兵庫県西宮市で麻疹と診断されました。この男性は関西国際空港(関空)を利用して 7 月 31 日にパリ島に出発し、8 月 5 日に帰国しました。帰国後の 9 日に 39.1℃の高熱、12 日に発疹が出現したものの 13 日に東京に移動し、14 日、千葉県幕張メッセで開催されたジャスティン・ビーバーのコンサート(観衆は約 2 万 5000 人)に参加しています。この日、近くの医院を受診しましたが、麻疹とは診断されていません。15 日には神奈川県内を訪れ、このときも他の医院に行きましたが、麻疹とは診断されず、西宮に戻っています。帰宅後も症状が緩和しないため、18 日も近医を訪れ、ここでも麻疹との診断には至らず、同日、別な病院で麻疹 PCR 検査を受け、19 日に麻疹と確定しました。なお、この男性は麻疹ワクチンを接種していませんでした。

幕張メッセのコンサートに参加した人のうち 2 名が、のちに麻疹を発症しています。お

院内感染対策研修会 DVD 上映

9月7日に開催した抗菌薬に関する院内感染対策研修会を下記の日程でDVD上映します。できる限りの参加をお願いします。

10月13日(木)

12:00～14:00

9階会議室(2回上映)

10月17日(月)

12:00～14:00

9階会議室(2回上映)

16:00～17:00

3階会議室③

10月18日(火)

16:00～17:00

3階会議室③

10月20日(木)

12:00～14:00

9階会議室(2回上映)

16:00～17:00

9階会議室

院内感染対策研修会

上記と別にインフルエンザの院内感染研修会を下記の日程で開催します。当日の参加が難しい職員のために、DVDによる上映会や各部署へのDVD回覧も後日おこなう予定です。

日時：11月4日(金)

15:00～16:00

場所：3階会議室

そらくはこの男性が感染源になった可能性が高いと推測されています。

関西国際空港での麻疹集団発生

この男性は7月31日に関空を利用していましたが、このときは麻疹を発症していません。その後の調査で、7月31日に関空を利用した、20代と30代の男性2名、20代女性1名が8月9日～11日の期間中に麻疹を発症し、4名ともすべて同じ遺伝子型(H1)の麻疹ウイルス感染だったと判明しています。おそらくは4名とも7月31日に、関空で同じ発生源から麻疹に感染したのではないかとされています。20代の男性と女性は麻疹ワクチンの接種歴が不明でしたが、30代男性はワクチン未接種者でした。

さらに、関空で空港地上支援業務を行っている20代女性が、8月17日に麻疹を発症し、その後の保健所が実施した関空職員における接触者調査の結果、9月16日時点で合計33名が麻疹陽性と判明しています。また、関空職員の麻疹感染者を診察した医師1名と、搬送に関わった救急隊員の1名も麻疹に罹患したと発表されています。大阪府内では一連の集団感染で合計35名が麻疹と診断され、9月17日以降の新たな麻疹の発生は認められていません。

麻疹集団感染が発生した要因

かつて日本の麻疹感染者数は年間数十万人に上ったこともあり、一時は「はしか輸出」と非難されるほどでした。しかし、2006年度から未就学児を対象に2回のワクチン定期接種を始めたことなどが奏功し、昨年には土着ウイルスが国内に存在しない「排除状態」とWHOから認定されて、事実上の国内撲滅が達成されました。

それにもかかわらず、今回のような集団感染が起きた理由のひとつとして、ワクチン接種が不十分な世代の存在が指摘されています。麻疹ワクチンは、通常2回接種で免疫が強固となりますが、日本の予防接種制度には変遷があり、未接種の世代や1回接種の世代があります。また、定期接種の対象となっても接種率の低い地域もあるといわれています。関空で集団感染した者の多くはワクチンを1回しか接種していない人が多い20代と30代に集中しており、全国的にみても同世代の感染者が多い傾向にあります。

最後に

今回のケースは今後も起こりうる可能性が高いでしょう。当院では麻疹感受性者に病院負担でワクチンを接種していますが、このような事例の発生抑制のためにも、身内や知り合いにワクチン未接種の20～30代の人がいる場合は、接種を促すのも医療者としての務めではないかと思われます。

編集：大崎市民病院感染管理室(2916)